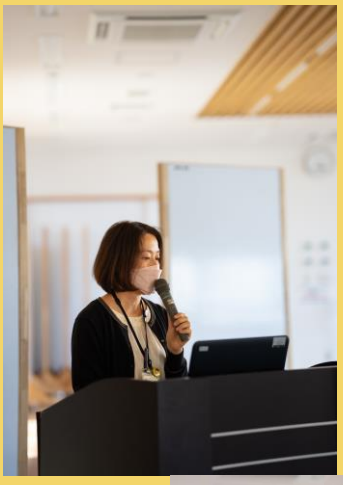


# 小林市地域日本語教育フォーラム
# 報告書
# 2023 年

## 小林市役所地方創生課

報告者：
国際化推進コーディネーター
満留　由紀子
メール:
k_kokusaika@city.kobayashi.lg.jp

Tel: 0984-23-1148
Fax:0984－23－6650

# 目次

フォーラムの目的、日時、場所、内容 3

趣旨説明 4

小林市の最重外国人数の変化推移 4
在留資格
国籍別在留外国人
小林市の人口の推移 5
小林市国際化・多文化共生推進計画
スタートアッププログラム参加のきっかけ 6

基調講演「日本語教育・多文化共生から共生へ～小林市の事例を通して～」 14

在住外国人数 7
多文化共生と日本語教育をめぐる動き 9
文化庁「地域日本語教育スタートアッププログラム」 9
日本語教室の開設 10
多文化共生から共生へ 12

事例報告「サポーター、コーディネーターの視点から」 14

実施体制と主な取組み 14
報告１小林高校探究科学コース生徒より 15
報告２地域日本語教育サポーターより 17
報告３プログラムコーディネーターより 19

取組みのふりかえり 21

教室設置の取組みにあたって 21
チームづくり 22
現状とニーズ把握 23
教室づくり 23
事業のふりかえり 24
今後の展望 27

アンケート結果 28

# 小林市地域日本語教育フォーラム
## 「KIZUNA」が生まれる地域日本語教室：地域と一緒に創る居場所づくり

### フォーラムの目的

小林市では国際化・多文化共生を推進するために、地域日本語教育に 2019 年度から取り組んでいます。
本フォーラムのテーマは「KIZUNA が生まれる地域日本語教室」として、教室に関わるサポーター、日本語教師、コーディネーターなど、それぞれの立場から思いを共有します。

### 日時

2023 年 2 月 4 日（土）
午後 1 時から午後 3 時 30 分

### 場所

KITTO 小林（交流スペース）
小林市地域・観光交流センター（KITTO 小林/旧小林駅舎跡）2階交流スペース

### 内容

◇趣旨説明
◇基調講演 『日本語教育・多文化共生から共生へ』
～小林市の事例を通して～
平高 史也氏（愛知大学文学部特任教授、慶應義塾大学名誉教授）
◇事例報告
◇取組のふりかえり～これまでの KIZUNA の歩みと成果・展望～
満留 由紀子（地方創生課国際化推進コーディネーター、
文化庁地域日本語教育システムコーディネーター）

# 趣旨説明

## 小林市の在住外国人数の変化（2022 年 6 月 1 日現在情報）

2012 年…290 人

↓

2022 年… 512 人(1.2%)

## 在留資格

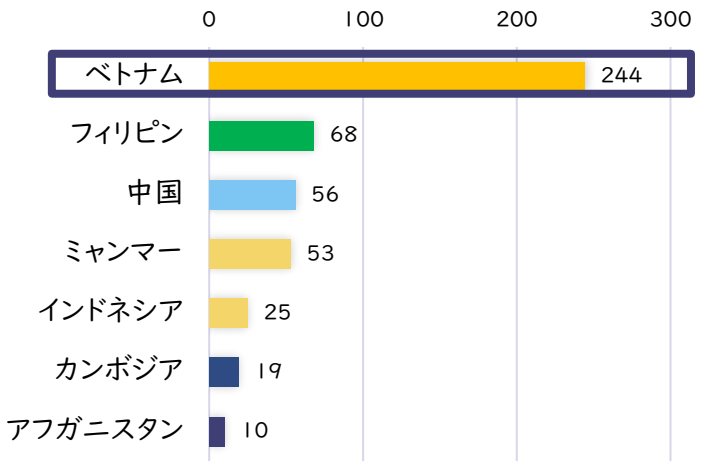
**1 位…技能実習 2 号ロ（183 人）**
2 位…特定技能 1 号（69 人）
3 位… 技能実習 3 号ロ（68 人）
4 位・・・永住者（64 人）
5 位・・・特定活動（36 人）

技能実習生の増加！

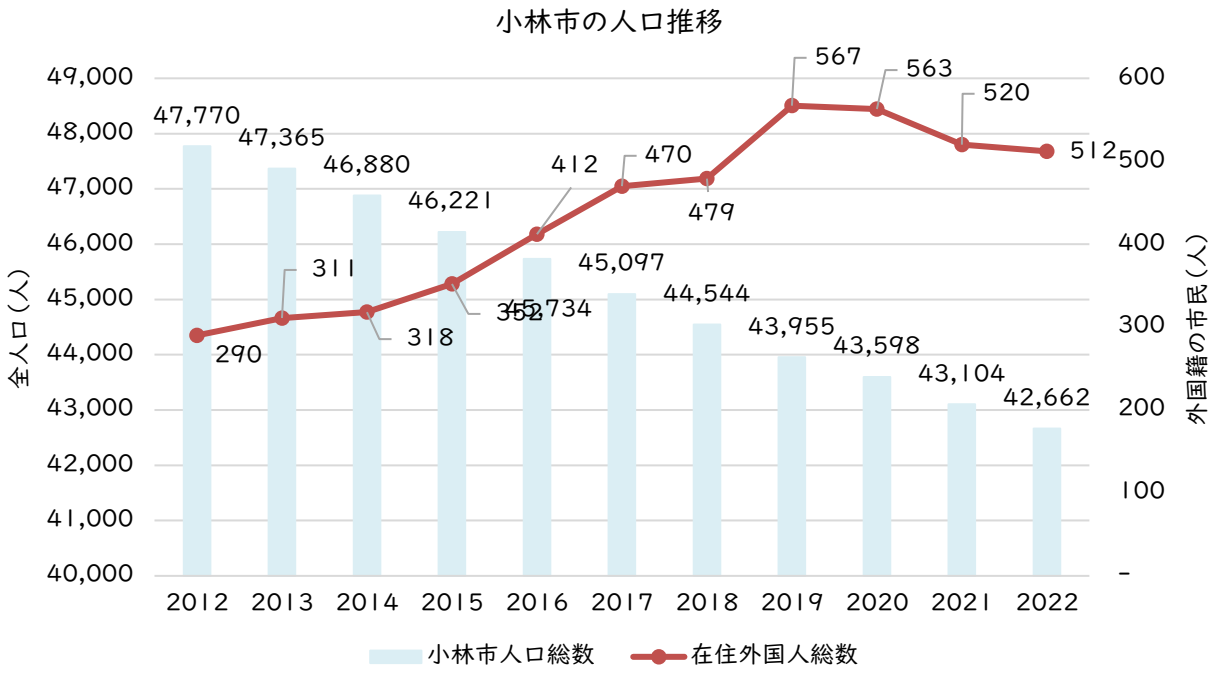
出典：市民課より

## 国籍別在留外国人

国籍別在留外国人（2022年6月1日現在）



## 小林市の人口推移




## 小林市多文化共生推進計画

| 小林市国際化多文化共生推進計画（R2.3月） | | |
|---|---|---|
| **市民の国際感覚の醸成** | **外国人市民への支援** | **国際化推進体制の構築** |
| ・広報、SNS等情報発信<br>・外国語や文化を学ぶ国際理解講座 | ・生活情報の提供<br>・コミュニケーション支援 | ・多言語での災害情報や生活情報の提供 |

## スタートアッププログラムの参加きっかけ

2017～2018 年度　市の事業として運営（にほんごサロン）

**にほんごサロンの立ち上げ**

－在住外国人と日本人住民の交流促進
－日本語教室のボランティア候補の掘り起こし
－在住外国人への生活情報の提供

**運営時の問題点**

・学習者と支援・運営側の**目的意識の差**を埋めることができなかった
・ニーズに合った内容になりきれなかった

・運営側・日本人ボランティアに日本語教育の**専門家が不在**
『地域日本語教育の場』に昇華させることが困難

【2019年度～】

**地域日本語教育スタートアッププログラム活用**

・文化庁より専門家の派遣
・教室のあり方を丁寧に検討

文化庁の事業に参加！【現在4年目】

# 基調講演

「日本語

## 教育・多文化共生から共生へ～小林市の事例を通して～」

### 講師

- 平高　史也　愛知大学文学部特任教授、慶應義塾大学名誉教授

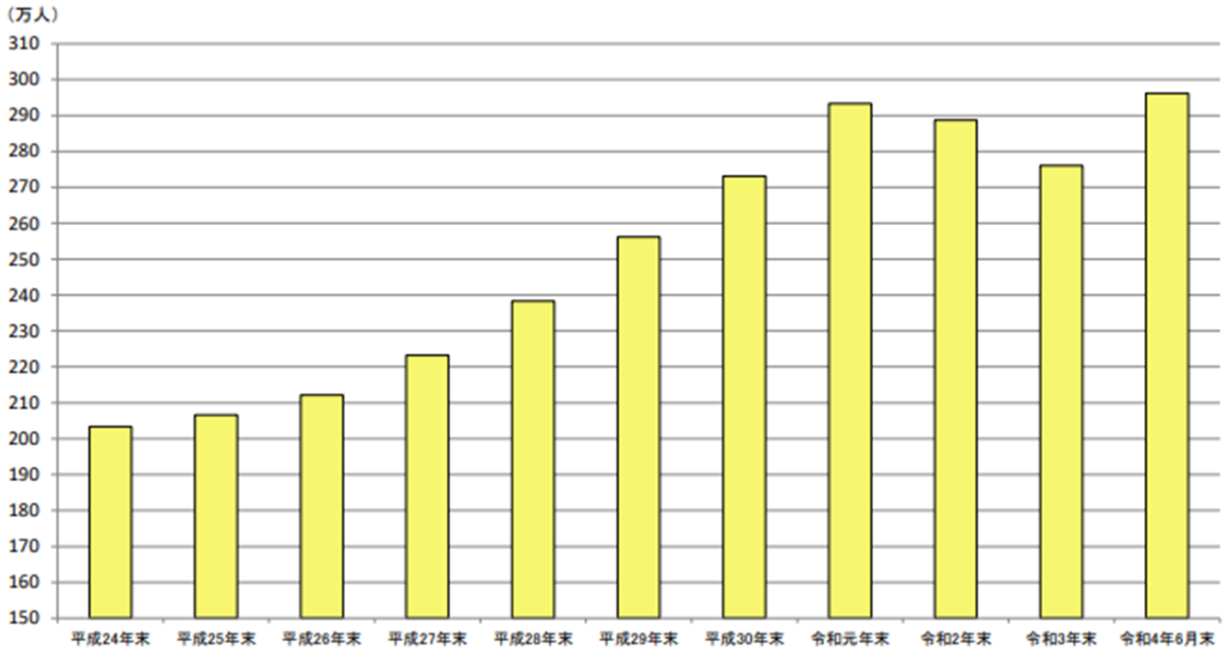
### 講演内容

- 在住外国人数
- 多文化共生と日本語教育をめぐる動き
- 文化庁「地域日本語教育スタートアッププログラム」
- 日本語教室の開設
- 多文化共生から共生へ

### 在住外国人数

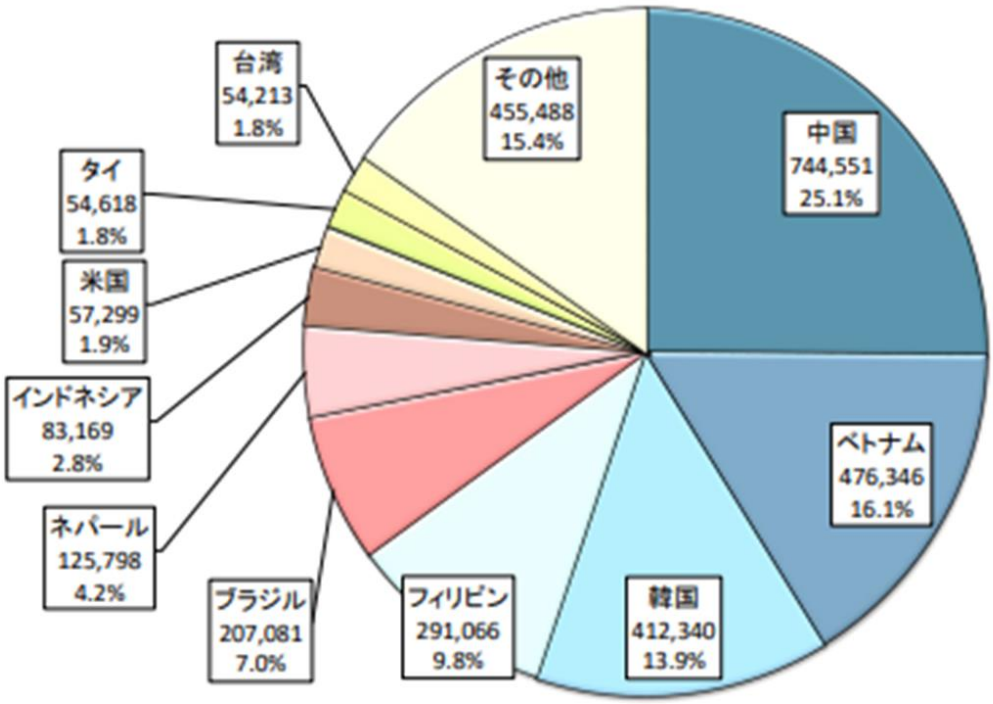
在留外国人数（2022 年6月末）
2,961,969 人（総人口の約 2.37%）

在留外国人数の推移（総数）



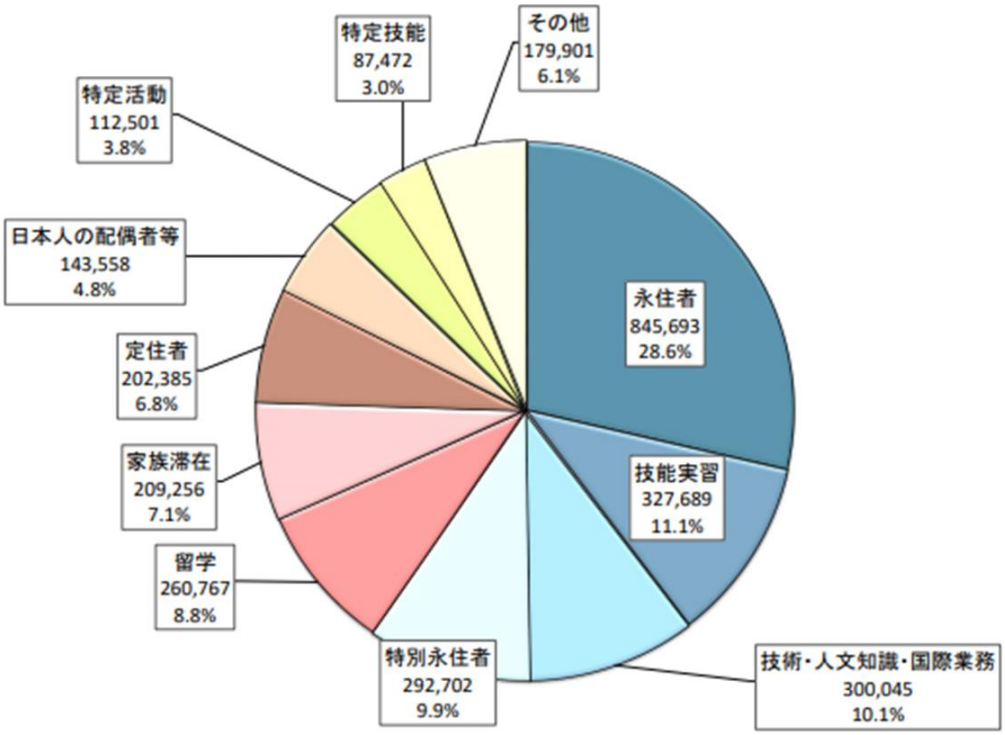

出入国在留管理庁（2022）

## 国籍・地域別 在留外国人の構成比




出入国在留管理庁（2022）

## 在留資格別 在留外国人の構成比




出入国在留管理庁（2022）

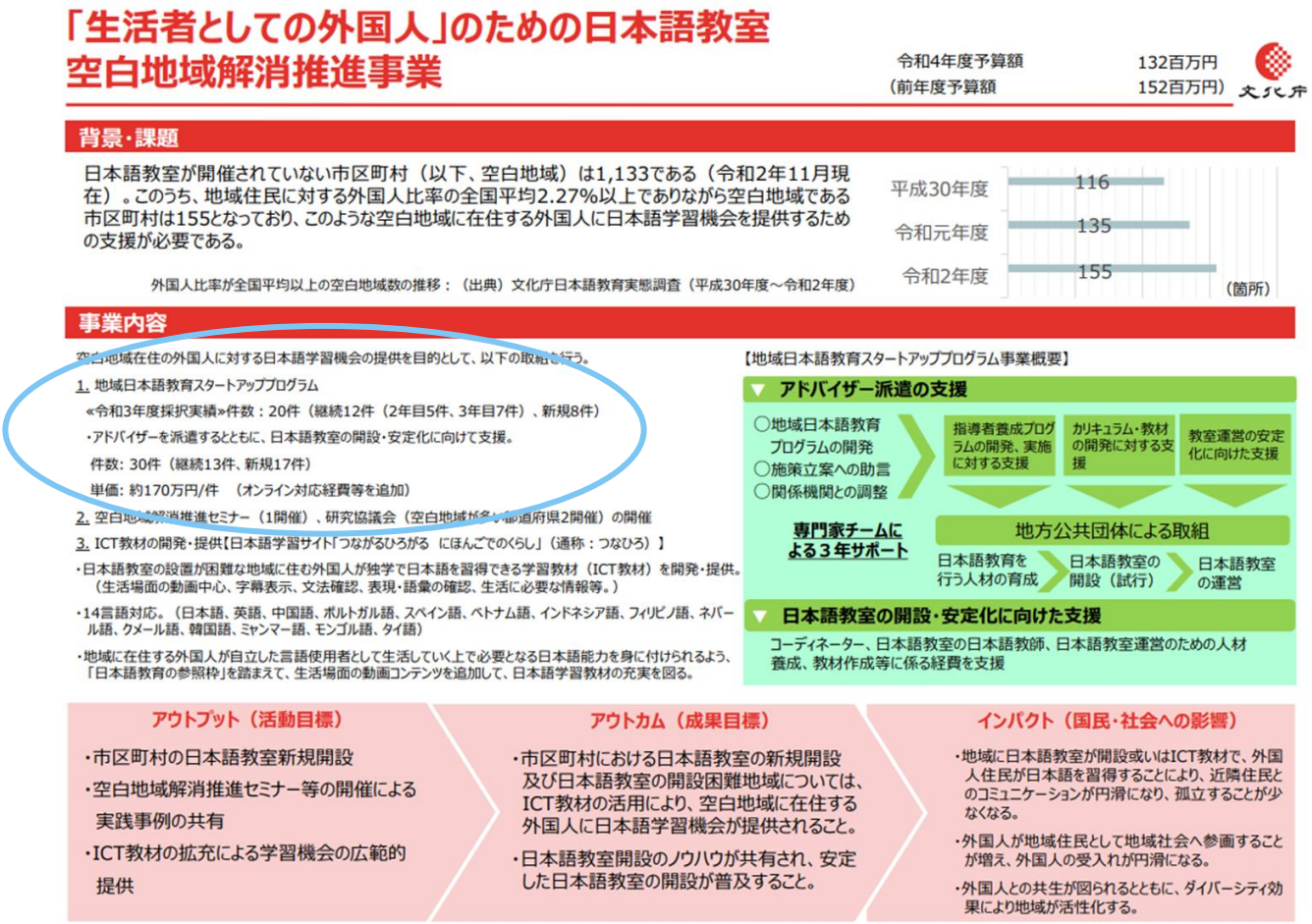
## 多文化共生とは

「国籍や民族などの頃なる人々が、互いの文化的ちかいを認め合い、対等な関係を気付こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」（総務省 2006：5）

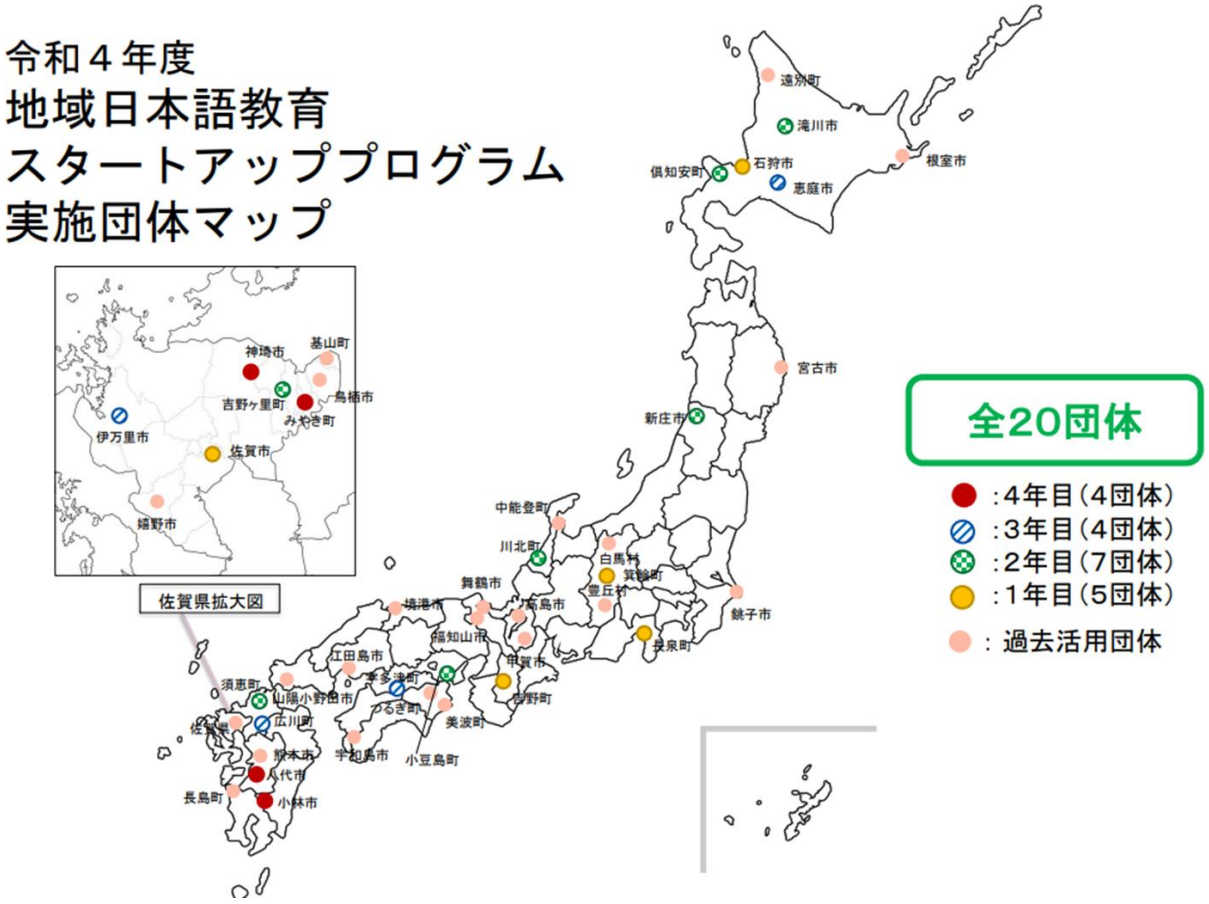
## 多文化共生と日本語教育をめぐる動き

- 1990 入管法改正→外国人急増
  → （ボランティアによる）日本語支援
  →地域日本語教育の拡大（留学生のための日本語教育だったが拡大していく）
- 2005 総務省「多文化共生の推進に関する研究会」
- 2007 文化庁「生活者としての外国人」に対する日本語教育事業
  →地域における日本語教育充実のための本格的な取組開始。（対象：成人）
- 2018 「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業

## 文化庁「地域日本語教育スタートアッププログラム」




アドバイザーを派遣するとともに、日本語教室の開設・安定化に向けて支援
→小林市も応募して 2019 年度から参加




文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業

## 日本語教室の開設・安定化に向けて必要なこと

1. 日本語教室が必要であるという課題の認識と共有
2. 日本語教室の開設に必要な要件に関する現状把握：予算、学習者、教師、教室の設置場所
3. 政策主体の姿勢（自治体の姿勢が重要、3 つの柱の施策 in 小林）
4. 地域（住民）の積極的な参加：自分事としてとらえること（後述するように、自己変革を通して自分のためにもなる）（自分が自分を変えていくためのきっかけになる。日本人が外国人に日本語を教えるだけではない）
5. 日本語教育についての（少しの）知識
6. 1.～5. を動かす（実践化する）ためのコーディネーション（数名必要になる）

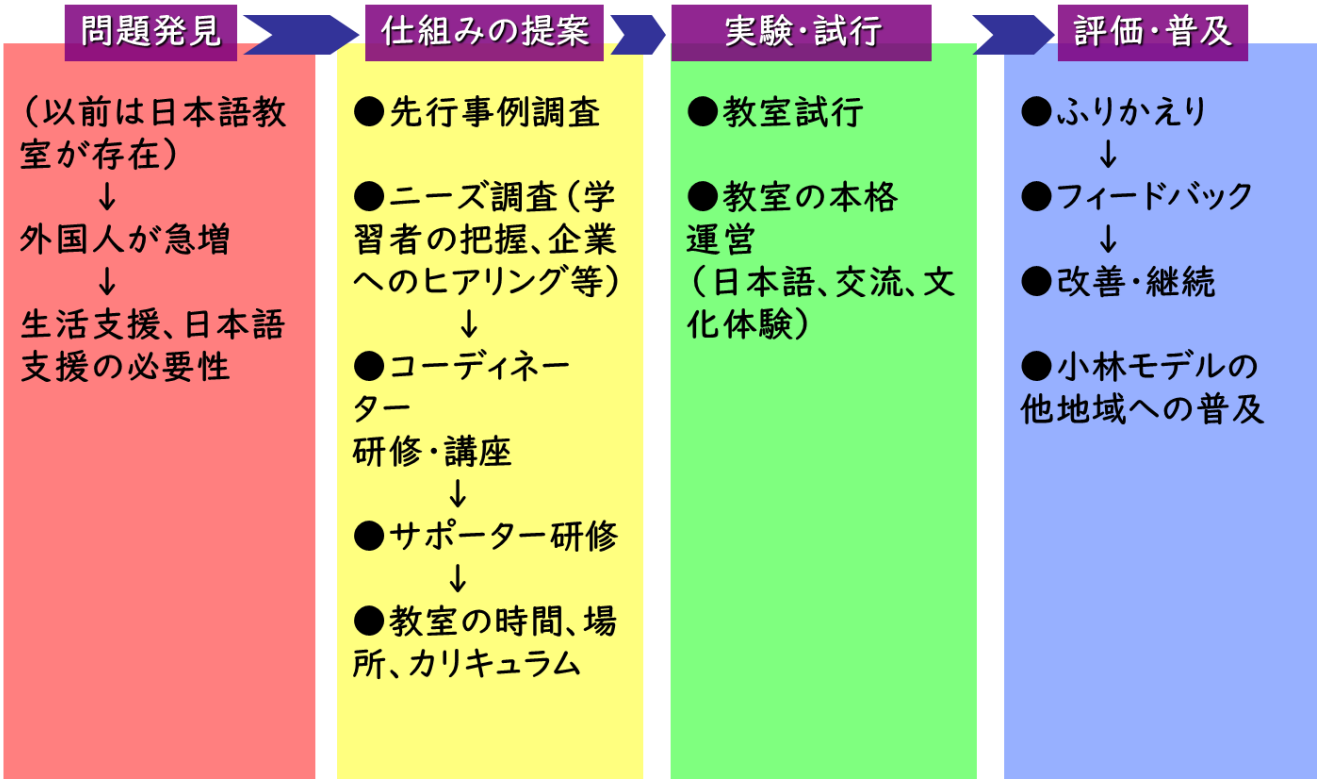
## 日本語教室の開設・安定化に向けて－小林市の場合－

- 応募以前にあった「にほんごサロン」
- 外国人の急増→日本語支援の必要性の認識
- 現状とニーズ調査：学習者の把握、職員アンケートと研修、企業へのアンケートとヒアリング
  →日本語学習の必要性、交流の場としての意義、時間帯、場所等
- 日本語教室の設置：日本語学習だけではなく、防災、市内散策
- 日本語教育コーディネーターの活躍
- サポーターの協力

地域日本語教育におけるコーディネーション

システムコーデ：政策主体に近い、実施主体と日本語教育を結ぶ人
日本語教育コーデ：日本語教育と学習者を結ぶ人

地域日本語教室の開設プロセス




多文化共生の問題を見つける。
他の地域でどうやってる？小林市で現状を知る。
教室を試しに動かしてみる
ふりかえり➡4 年目に評価、改善していく➡小林モデルとして、日本の他地域へ広めていく

インパクト（国民・社会への影響）

- 地域に日本語教室が開設或は ICT 教材で、外国人住民が日本語を習得することにより、近隣住民とのコミュニケーションが円滑になり、孤立することが少なくなる。
- 外国人住民が地域住民として地域社会へ参画することが増え、外国人の受け入れが円滑になる。
- 外国人との共生が図られるとともに、ダイバーシティ効果により地域が活性化する。

## 多文化共生から共生へ

- 地域に日本語教室が開設或は ICT 教材で、外国人住民が日本語を習得することにより、近隣住民とのコミュニケーションが円滑になり、孤立することが少なくなる。

↓

日本語教室は、人と人をつなぐ

外国人と日本人だけでなく、自治体と企業・日本語教師

年齢を超えて若年層と壮年層、老年層・・・

日本語教室は、居場所を創る

- 外国人住民が地域住民として地域社会へ参画することが増え、外国人の受け入れが円滑になる。

↓

「日本人は支援する人、外国人は支援される人」ではない。

日本語教育→日本語学習支援？

日本人、外国人を問わず社会参加は必要

外国人による炊き出し、小林市の電動車いす職人（パキスタン人）

日本人／外国人という区別は不要

- 外国人との共生が図られるとともに、ダイバーシティ効果により地域が活性化する。
（多様性）

↓

文化の違いだけではなく、年齢の違い、心身の健康状態の違いなどによるさまざまな区別、差別を超えて、互いに支え合う、配慮し合う社会へ

誰もが参加できる開かれた地域へ、という意味での地域日本語教育は地域創生といえる

- 外国人受け入れや支援だけの問題ではなく、地域住民一人ひとりが自分自身を変えていくこと

→受け入れ社会（の多数派である日本人）の自己変革のチャンス（実は 30 年前に到来していたチャンス）

＝「内なる国際化」 日本にいながらして、自分が国際化していかないといけない

**参考文献・サイト（2023 年 2 月 4 日閲覧）**


- 大江守之・平高史也（2006）「問題解決実践と総合政策学－中間支援組織という場の重要性」大江守之／岡部光明／梅垣理郎編著『総合政策学 問題発見・解決の方法と実践』157-182 慶應義塾大学出版会
- 出入国在留管理庁（2022）「令和4年6月末現在における在留外国人数について」報道発表資料 令和 4 年 10 月 14 日 https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00028.html
- 総務省（2006）「多文化共生の推進に関する研究会報告書～地域における多文化共生の推進に向けて～ 」2006 年3月 https://www.soumu.go.jp/kokusai/pdf/sonota_b5.pdf

# 事例報告

## 内容

（1）実施体制と主な取組み

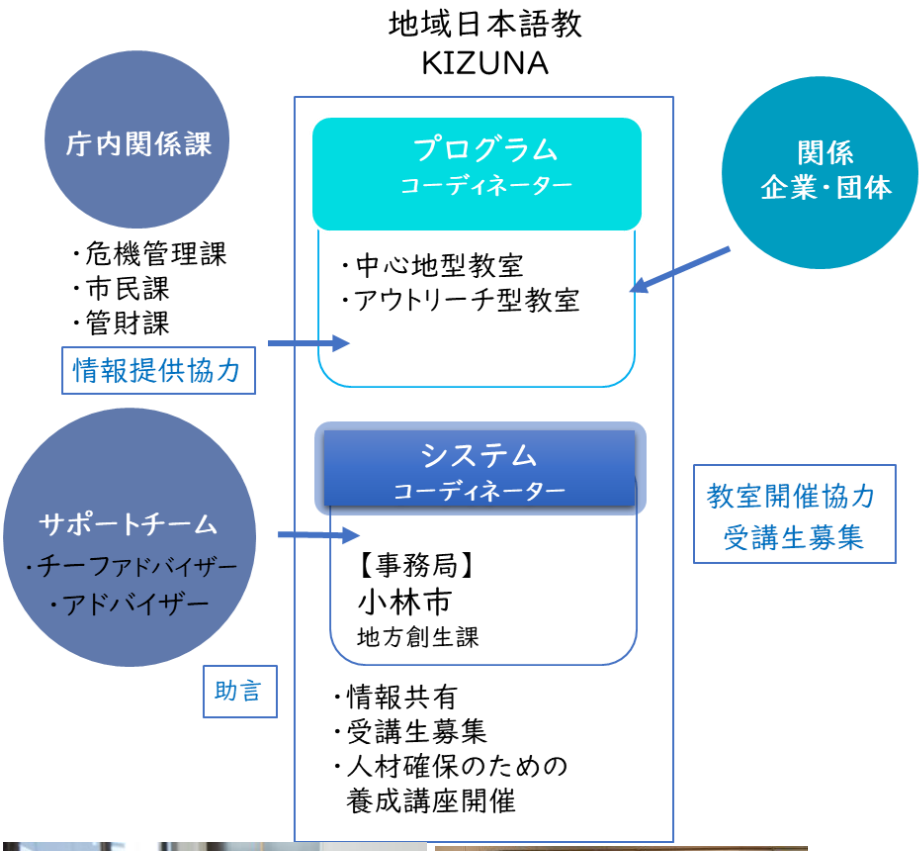
（2）報告1 小林高校探求科学コースの生徒より報告

（3）報告2 地域日本語教育サポーターより報告

（4）報告3 地域日本語教育プログラムコーディネーターより報告

## 実施体制

（1）実施体制と主な取組み



## 主な取組み

**令和元年度（1年目）**

**1年目：基盤づくり**
・庁内職員への意識啓発
・市民ボランティア候補発掘

庁内職員向けアンケート
職員向け研修
市民向け講座

**令和2年度（2年目）**

**2年目：試行**
・教室運営の中心の役割を担う人材を確保
・企業向けアンケート
・プレ教室試行（技能実習生）

キーパーソン発掘
企業向けアンケート及びインタビュー調査
29年度実施アンケート精査（再整理）
プレ日本語教室活動

**令和3年度（3年目）**

**3年目：連携**
・コーディネーターの増員
・県・県国際交流協会との連携
・教室本格始動
・サポーター育成

**小林市地域日本語教室コーディネーター講座**
市内外国人市民向けアンケート
小林市地域日本語教室サポーター養成講座
**小林市地域日本語教室KIZUNA実施**

**令和4年度（4年目）**

**4年目：連携・次年度に向けて**
・コーディネーターの増員
・企業、高校生、警察署との連携
・サポーター育成
・教室実施

小林市地域日本語教室サポーター養成講座～フォローアップ編～
小林市地域日本語教室KIZUNA実施（中心地型・アウトリーチ型）
職員研修

## 報告1 小林高校探求科学コースの生徒より報告

### 報告者

宮崎県立小林高等学校探究科学コース

清水 芽衣

園田 倖子

（2）報告1 小林高校探求科学コースの生徒より報告

地域日本語教室 KIZUNA へ企画をプレゼン➡浴衣着付け体験と年賀状作成に決定

**KIZUNA への参加理由と意義**

- 国際に興味・関心があった
- 授業の研究テーマとして選択
- 自ら国際交流の企画をしてみたい
- 様々な発想を共有して、活動を活性化する
- 活動を若い世代に伝える
- 学校生活の知識・経験が活かせる

**私たち企画の教室の目的**

- 日本の文化を知ってもらう
- 参加する人が気軽に話せて交流できる場
- 普段の生活の場で使える日本語を学ぶ

**浴衣着付け体験のまとめ**

- 日本の文化を知ってもらった
- 新たな交流の機会

**年賀状作り体験のまとめ**

- 学習者１人にサポーター１人で、じっくり活動ができた
- 新たな発見と学びが相互で起きていた

**～まとめ～**

- 日本文化体験を通した交流の場を作ることができた。
- さまざまな国の人と気軽に日本語を学べて、
- 楽しめる活動を行うことができた。

**～反省点・改善点～**

- サポーターと私たちの考えが通じていないことがあった。
  ⇒事前に活動目的や活動の流れをサポーターと確認しあう。
- 体験に必要なものを誰がどのように準備するか明確にする。
  ⇒把握できている準備物から細かく振り分けをする。

**～展望～**

地域日本語教室 KIZUNA で外国人市民の方から聞いた日本で 生活する上での悩みを解決できるような取り組みを行う。

地域日本語教室についてより多くの人に知ってもらう。

⇩

活動の様子や内容を発信する

**～参加してみて～**

・日本人と外国人相互にとっていい経験

例：日本の文化紹介、外国の文化を知る

・お互いに学べる場

・多くの人にも知ってもらって参加してもらいたい

・KIZUNA は大事な交流の場

## ビデオメッセージ

## 報告2 地域日本語教育サポーターより報告

### 報告者

小林市地域日本語教育サポーター　徳永　敬子
新村　りか

（3）報告2 地域日本語教育サポーターより報告

参加のきっかけ

- 子育てがひと段落して、何かできないか。新しいことにチャレンジしてみたい
- コロナ禍で制限があった
- 市の広報でチラシを見つけた
- 日本語教師との会話で、英語ができなくても大丈夫。やさしい日本語で外国人と話せたら大丈夫。人との絆を大事にする場所ということで参加してみることにしました。

KIZUNA に参加してみて

- 参加して最初の頃は緊張して、構えていた。外国人に分かるように伝えられるか心配で、上手くできずに落ち込んだ。
- 継続して参加していく中でわかったことは、学習者が楽しめたり、また来たいと思ってもらえたらと思うようになってきました。いろいろな国の人がここにきて出会って、絆が生まれていくんだと実感した。

地域日本語教室 KIZUNA の活動

- 日本の事も分かっていないことがある子に気づく
- 相手の文化や事情を直接知ることができた。改めて、一緒に学ぶ機会にもなった。

出会い：地域日本語教室 KIZUNA

- インドネシアからきた頑張っている女性のストーリーを聞いて
- 自分自身もその話を聞いて感動
- 自分自身も引っ越しをすることが多くてさみしい気持ちがよくわかる（声かけてもらえるだけでもうれしい）
- さみしい思いをさせたくないという思い
- 娯楽の少ない小林市で KIZUNA を楽しみにしている

地域日本語教室 KIZUNA から地域へ

- 秋まつりを一緒に楽しんだり、自宅でお餅つきするときに招待
- 近くの神社に行って日本文化に触れる機会になった
- 自分にとっても良い経験になった
- KIZUNA に来てくれる人がこの小林で心地よく過ごせるようサポートしたい

## ビデオメッセージ

参加のきっかけ

- 友人との会話がきっかけ
- 日常生活の中で外国人と接する機会があったら、自分自身もあせる
- 回覧板のチラシでサポーター募集のきっかけ
- 平常心でコミュニケーションを取れる方法を教えてくれるかもしれない

未来のサポーターへ

- とりあえずやってみて
- 外国語話せなくても大丈夫
- 日本語を使って、考えるお手伝いをする
- 日本語教えられなくても大丈夫
- 先生と生徒という関係ではない
- 外国の人と一緒に考えたり、イベントに参加する。日本語で会話をしていくのがサポーター
- 不安で自身がないけど大丈夫。サポーター仲間がいる。日本語教師もいるし、サポーターのフォローもしてくれる。
- サポーターに必要なものは「愛情」。故郷を離れ、家族と離れて日本で生活するのに笑顔で安心して暮らせるようお手伝いするのがサポーター

## 報告3 プログラムコーディネーターより報告

**報告者** 李 妍

（4）報告3 地域日本語教育プログラムコーディネーターより報告
「KIZUNA と共に成長する」

### KIZUNA とともに成長する

**1.どういう思いで教室に携わるようになったのか？**

**小林市地域日本語教育事業との最初の接点は？**

**2019年市民講座「異文化を持つ人たちとともに暮らす社会を目指して」**

**小林市にも日本語教室があるといいなあ…**

**小林市らしい日本語教室を作りましょう！**

**1.どういう思いで教室に携わるようになったのか？**

**経験**

小林市で暮らしている
一人の外国人

**知識**

中国の大学で
日本語教育を専攻

**感想**

市が主催したイベント・
活動の参加者

2. どういう活動をしているのか？

①カリキュラムを作成

②教室用の各資料を作成

③円滑に教室活動を進められるようコーディネート

④教室活動記録、振り返り

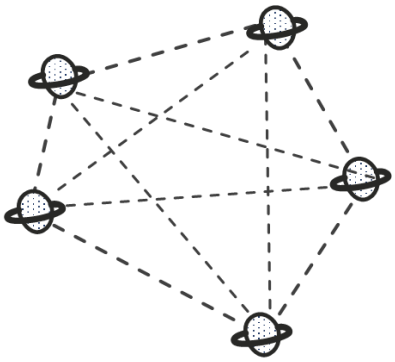
3. どのようなことに気を付けて活動しているのか？

・お互いの文化・習慣を尊重する

－「当たり前」は人それぞれ違う

・全員学びのある場を作る

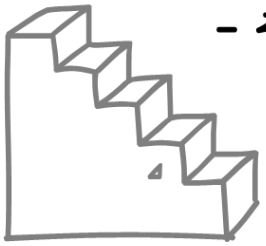
－単なる指導役/補助役ではなく、全員「参加者」



・柔軟な心を持ち、焦らず、一歩ずつ

－完璧でない教室を許す

－その時点でのベストを尽くす



# 取組みのふりかえり

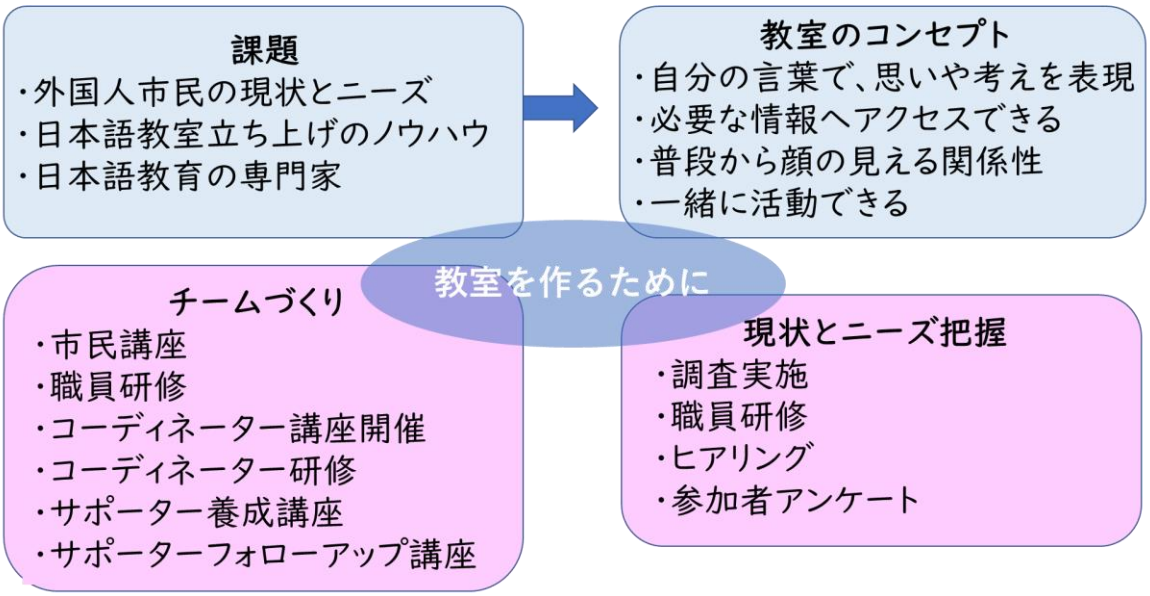
## 「KIZUNA と共に創る居場所づくり」

**発表者** 満留 由紀子 小林市役所地方創生課 国際化推進コーディネーター

**内容**

1. 教室設置の取り組みにあたって
2. チームづくり
3. 現状とニーズ把握
4. 教室づくり
5. 事業のふりかえり
6. 今後の展望

### 1. 教室設置の取り組みにあたって



## 2. チームづくり

### 教室を作るために：チーム作り（1 年目）

・市民講座

**目的：**
・サポーターの発掘
・市の取組みを広めていく始まりの講座
・外国人支援・日本語教育に関する情報共有

**結果：**
・サポーターとして活動できる可能性のある人材の発掘
・市住民の本市の国際化・背景の異なる人との共生について理解を深めた

・職員研修

**目的：**
・職員の意識啓発のため
・来庁している外国人市民の現状把握

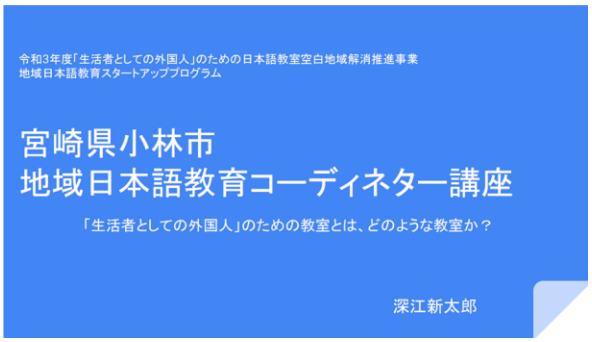
**結果：**
・市の外国人住民へのサポート方法を考えるきっかけとなった
・より実践的な窓口対応について知りたいとの声が聞こえてきた

### 教室を作るために：チーム作り（2&3 年目）

・コーディネーター研修
・コーディネーター講座開催

**目的：**
・サポーターと一緒に活動できる人材の発掘
・教室の目的、役割を説明
・様々な日本語教育教材の紹介

**結果：**
・市内在住の日本語教師を委嘱（現在は3名体制）
・紹介のあった日本語教育教材を基にその後の日本語教室を実施した



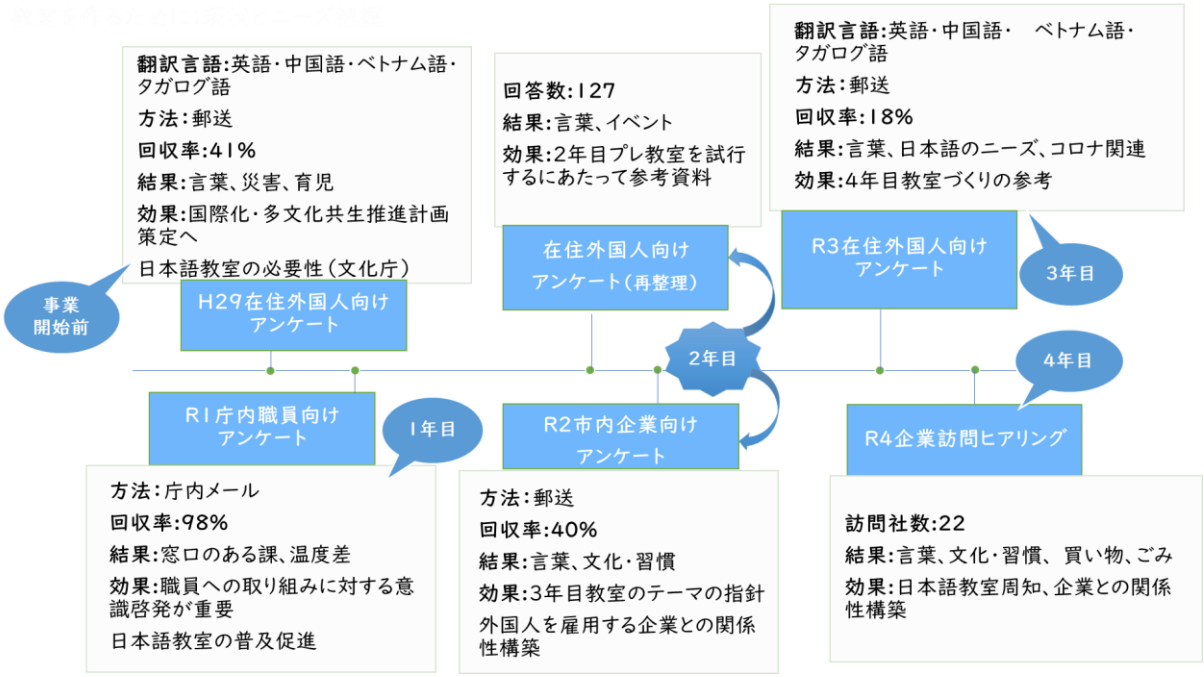
## 教室作るために：チーム作り（3&4年目）

・サポーター養成講座
・サポーターフォローアップ講座

**目的：**
・教室で日本語教師と活動できる人材発掘
・教室活動に必要な知識やスキルを提供
・サポーターの活動の意見やアイディアを募る

**結果：**
・サポーター登録（14名）
・サポーター中心で企画・実施

## 3. 現状とニーズ把握




## 4. 教室づくり

**アウトリーチ型：企業内教室（2年目）**
・地域企業の会議室を借りて実施
・土曜日午前中実施
・公共交通機関の限られた地域に居住する外国人市民向けの日本語教室

**教室回数：全4回**
**テーマ：はじめまして、私たちの町、たのしいお祭り、年末年始**
**参加者数（延べ人数）：71人**

**中心地型教室in市役所（3年目）**
・市役所の会議室で教室を実施
・土曜日午前中実施
・公共交通機関の限られた外国人市民が自転車や徒歩でアクセス

**教室回数：**全7回
**テーマ：自己紹介**、日本の文化・お祭り、防災、病院、市内散策、日本の四季
**参加者数（延べ人数）：**59人

**アウトリーチ型教室（4年目）**
・地域の公民館を活用し、教室が地域へ出向いて実施
・公共交通機関の限られた地域に居住する外国人市民向けの日本語教室

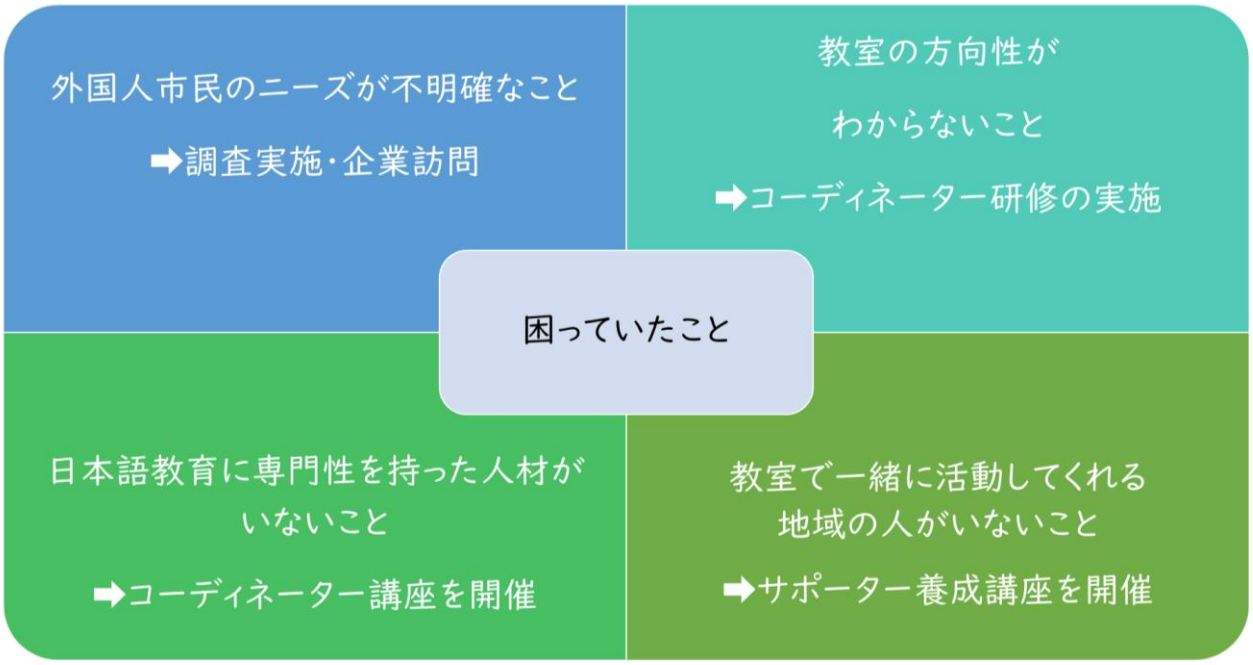
**教室回数：**全3回
**テーマ：**自己紹介、災害に備えよう、ゆーぱるのじり探検
**参加者数（延べ人数）：**12人

**中心地型教室inTENAMU（4年目）**
・日曜日午前中実施
・駅周辺の交流スペースで日本語教室を開催
・公共交通機関の限られた外国人市民が自転車や徒歩でアクセス

**教室回数：**全6回
**テーマ：よかとこ小林**、浴衣体験、まち歩き、クイズ大会、年賀状、買い物
**参加者数（延べ人数）：**49人

## 5. 事業のふりかえり

**コーディネーターとして。。。**



教室づくりをしてみて。。。

**教室づくりで困ったこと**

- どこに外国人市民がいるのかわからない
  ➡アンケートや企業訪問で教室案内
- 参加者人数が安定しない
  ➡外国人を雇用している企業が集まる地区で実施（アウトリーチと中心地）
- 教室の場所、日時がわからない
  ➡開催日時を日曜日の午前で実施。
  企業訪問でヒアリング
- 参加する外国人のニーズが様々
  ➡生活に根ざしたテーマと文化体験などの教室を開催

外国人学習者と交流してみて

**外国人学習者との交流からわかったこと**

- 色々な人が教室を訪れる
  ➡基本的な挨拶はできる、読み書きが苦手、外国人同士交流がしたい、試験に合格したい、学校の配布プリントがわからない
- テーマによって集まる人が違う
  ➡日本人と話をしたい、防災について知りたい、文化体験をしたい
- 片言でも対話が生まれる
  ➡伝えたい、分かり合いたいという気持ち
- お互いに学び・発見の場
  ➡いろいろな国の言葉や風習について共有

サポーターとの交流

**サポーターとの交流から わかったこと**

地元の知識人

➡多彩な趣味を持った人、地域の資源をよく知っている人、
地元の人とのネットワークが広い人

気軽に聞けるお隣さん

➡市職員へ気軽に相談できる、
教室でできた繋がりが地域との繋がりへ

世代間交流の場

➡教室活動の広がりができる

サポーターの教室の関わり方

➡企画を検討することが得意なサポーター、
決定した活動内容に沿って支援することが得意なサポーター

企業訪問から

**企業訪問から見えてきたこと、わかったこと**

快適な環境で暮らせるように支援

➡新しい寮の建設、WiFi環境を整える、食料品の買い物の定期的な送迎支援などなど

大事な働き手の一人

➡仕事で上を目指せるように環境を整える

仕事以外の休日に楽しみを見つけてメリハリのある生活

➡イベント参加や教室参加への声かけ

外国人支援への理解

➡企業へ出向いて声に耳を傾ける事、
KIZUNAのことを伝える事

6. 今後の展望

- 在住外国人の増加から見えてくる**現状とニーズ把握**
- 国際化・多文化共生推進計画と事業との**つながり**
- 在留資格では縛れない**多様なニーズ・考え**
- 上記を踏まえ**関係者と話し合い**、関わる人と一緒に創る
- 小林市地域日本語教室を中心に、**地域の人と顔の見える関係**、**知りたい情報にアクセスできる**、**気軽に相談できる**

↓

KIZUNAが生まれる場所

# アンケート結果

フォーラムの内容について

基調講演の内容について

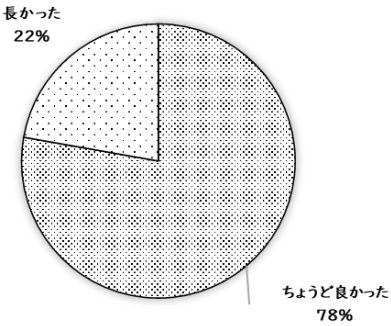
高校生の事例報告について

サポーターの事例報告について

プログラムコーディネーターの発表について

取組みのふりかえりの内容について

時間について



今後、どのようなテーマの講座やフォーラムを希望しますか。

| |
|---|
| 日本語教室の今後の展開をまた聞きたいです。 |
| 人材の育成や外国ルーツの子どもたちへの日本語指導についてのもの |
| 外国籍市民の方を交えたフォーラム |
| 日本語教室（KIZUNA)の実施報告を今後も継続して教えていただけたらと思います。 地域住民の多文化共生への意識改革などのテーマがあれば参加させていただきたいです。 |
| 日本語教室の、日本語教育にとどまらない取組について |
| 今回のような関係者のいろいろな立ち位置からのお話し、とても良かったと思います。 |

今日のフォーラムでお気づきになった点、ご意見等がありましたらご記入ください。

| |
|---|
| 非常に興味深く素晴らしい内容でした。また色々と詳しいお話を伺いたいと思います。 |
| 時間制約の関係だとは思いますが、質疑応答時間の際、Zoom 参加者への呼び掛けをしてくださらなかったことが残念でした。 |
| 島根県益田市で、地域日本語ボランティア教室の運営に参加しています。運営団体は 25 年の活動歴があるボランティアグループで、組織基盤がしっかりしているせいか、市からは委託費をいただいてはいるものの、市の中で多文化共生に一元的に取り組む組織やリーダーシップが生まれてこないこと（お金は出すが、それ以上の関わりはしない）に対して、今後のグループの運営を考えた時に、不安に感じる部分があります。小林市は同等の人口規模ながら、満留さんのようなコーディネーターのもとしっかりとした体制を築いてきておられ、大変素晴らしいなと思いました。当市にもどうすればこのような方向に動いてもらえるものかと、考えながらお話を聞きました。<br><br>当グループも Facebook のページを持っておりますので、もしご興味があれば活動の様子を見に来てみてください。<br>https://www.facebook.com/profile.php?id=100083083821318<br><br>本日はありがとうございました。 |
| 大変、貴重な発表を聞かせていただいてありがとうございました。サポーターさんを含めて、それぞれの立場からのお話はとても参考になりました。チーム力、うらやましいです。また、時間をかけた丁寧な準備によって教室を運営されていることがわかりました。日々の教室活動で振り返ることをおろそかにしがちなところでしたが、私たちも教室のコンセプトをもう一度振り返りながらぶれずに進んでいこうとおもいます。ありがとうございました。 |
| 立場の違う方がそれぞれの視点からお話しされていたのと、どなたも丁寧にわかりやすく発表されていたのとで、わかりやすかったです。二人目のサポーターの発表のされ方が良い意味で参考になりました。養成講座で、経験者にあのように語ってもらうと「やってみよう！」と思う人が増えそうです。 |
| 今、アンケートに答えていますが、会場の声がずっと聞こえていますよ。予算に関する質問と応答を興味深くお聞きしました。<br>それはともかく、今日は、ありがとうございました。私の所は、スタートアップ事業の1年目（先行事例なし！）に参加し、今は、6年目が経過しようとしているところです。文化庁の3年と次の1年までは順調でしたが、後の2年はコロナ禍で活動が低調になっています。4月から巻き返しを図ろうと今、コーディネーターとしていろいろ勉強中で、小林市のフォーラムへの参加もその一つです。四国の田舎で日本語教室の継続に向けてこれからも頑張ります。参考になりました。ありがとうございました。 |
| サポーターの養成だけではなく、コーディネーターの研修まで市主催で行われていることに驚きました。小林市の地域日本語教室のコンセプトがチーム内でしっかりと共有され、絆がとても強いと感じました。随所に参考にさせていただきたい点があり、大変勉強になりました。ありがとうございました。 |

| |
|---|
| 東京都新宿区の高田馬場でミャンマー人の方々の日本語学習支援活動と生活相談を行っています。また大学で日本語教育に携わっております。実家がお隣のえびの市ですので、その地域の日本語教育や多文化共生への取組に関心を持ち、本日は参加させていただきました。<br>今日のお話で、文化庁のスタートアップ事業を上手に活用され、丁寧に準備を進め日本語教室を開催されていることがよくわかりました。最初に、地域住民の多文化共生への意識の「醸成」という言葉がありましたが、とても大切なことであり難しいことかと思います。サポーターの研修を行い人材の発掘をされるなど、住民の方を上手に巻き込んで活動を進められていると感じました。<br>教室を実際に運営してみると、私たちの教室でも、実に様々なニーズがあります。ひらがなカタカナから学習したい方や、漢字学習をしてお子さんの学校からのプリントを読めるようになりたい、JLPT を受けたい、国内外のニュースなどについて話し合いたいなどです。私たちの教室は、ほとんどがこれからも長く日本で暮らすことを希望されている生活者の方々です。<br>今後、日本語教室を継続されていく中で、買い物や防災や病院、日本文化などの生活に密着した内容に加えて、さらに一歩、社会参加や自己実現（日本語能力を上げたい、資格を取りたいなど）に向けた日本語教育のニーズも増えてくるのではないかと思いました。<br>本日は、小林市の素晴らしい取り組みを知ることが出来ました。<br>ありがとうございました。 |
| 素晴らしい発表をありがとうございました。 |
| 歩んできた１歩１歩を振り返ることができた時間でした。「地域と一緒に創る居場所づくり」というテーマのフォーラムですが、考えたら私自身もこの事業を通して自分の居場所を見つけました！ありがとうございました。 |
| ゆかたの着付け、年賀状づくりに参加できなかったけど今日の映像が見られて良かったです。 |
| 将来日本語教師やサポーターを目指したいと考えていて、小林市でも日本語教室や交流イベントがあったことを初めて知ることができた良い機会になりました。ありがとうございました！！ |
| 小林市に県外から引っ越してきてから ２ 年がたちますが、このようにすばらしい事をしていることを知れ、良かったです。１０ 年くらい前に日本語ボランティアをしていた当時を思い出しました。また参加させていただきたいです。ありがとうございました。 |
| チーム小林の素敵な皆さんのお話し、ありがとうございました。今後の経過とひろがりつながりを楽しみにしています、またいろいろ教えてください。 |
| これまでの色々と悩みながらもチームで進めていく素晴らしさに、改めて小林市の取組に感動しました。これからが楽しみです。 |